

東夷傳
書籍類
卷之三

ハノールブル記

正七位大島貞益纂譯

ゼオールジ第三世王ハ先王死シテ即日位ニ即ク
時ニ年二十三ハノールブルノ諸王中英ノ土ニ生
ル、者ハ此王ヲ初トス是ヨリ先ニ王並ニ他國
ヨリ来テ其郷土ヲ偏愛スルヲ以テ國人ト親マ
ス王登極ノ始議院ニ到リ衆中ニ語テ曰ク予此
土ニ生長シテ王位ニ昇ルコトヲ得ルハ身ノ光

榮ナリト是ヲ以テ國人相告ケテ皆慶喜セリ王
 才能ノ稱ス可キハナレト雖ビト舊ニ依テ政ヲ
 執リ黨派漸滅シテ闇國事ナクジコビト黨人ノ
 如キ前王ノ間退職セシ者モ此ニ至テ歸リ仕フ
 ル者多シ○千七百六十一年佛國戰ニ倦ミ諸國
 トオーグスボルグニ於テ和議ヲ講レ又別ニ英
 國ト使者ヲ往来シテ和ヲ議セシム然レモピト
 ハ必^ズミノルカラ取回サンコトヲ欲シテ其議久
 シク決セスピト乃又兵ヲ出シテ諸方ヲ攻略シ
 是歲バルアイ^ル佛國ヲ取り又ドミニカ^ル國ヲ奪フ

○是ヨリ先西班牙ノヘルジナンド第六世死レ
 テ其弟^子イ^プル^スノ王^キイル^ス位ヲ繼キ別ニ
 キ^{イル}スノ第三子ヘルジナンドヲ立テ、子
 プ^ルスノ王トス西王ノ家ハ佛王ノ支族ナリ故
 ニ是歲八月三家好ヲ結ヒ且西王佛王ト密ニ摺
 テ英國ノ和議着成ラスハ西國佛ヲ援ケテ兵ヲ
 起レ佛王其報トシテミ^ノル^カヲ西ニ還サント
 約マピト仄ニ之ヲ聞キ我ヨリ事ヲ發シテ西國
 ヲ伐タント請ヒレカ其議行ハレスピト乃官ヲ
 罷メ王^ビトト云フ者ヲ擢用シテ之ニ代ラシム

○千七百六十二年一月西國果レテ兵ヲ起シ西佛二國ノ兵葡萄牙ノ境上ニ逼テ之ヲ脅從セシトス然レモ葡國從ハス使ヲ遣テ英ノ援ヲ求メケレハビラトビルゴイント云フ者ニ若干ノ兵ヲ附シテ之ヲ援ケレム○是時ニ當テ英國ノ征兵到ル處皆利アリ是歲ロドニー及モンクトン等水陸軍ニ將トシテ悉クカリビー諸島及ハンナ并ニ西ヲ征服シビルゴイン葡萄牙ヲ助ケテ西印度人ヲ撃チ卻ケ東印度ノ水軍モ亦呂宋及近傍諸島ヲ攻メテ之ヲ奪フ然レモビラトハ固戰ヲ主ト

セス千七百六十三年二月巴勒ニ於テ和議成リ佛國カナダヲ以テ英ニ讓リミノルカラ以テベルアイルトト交換シ其他英國新ニドミニカグレナダノバ、ス、コチア等ノ數地ヲ得タリ○ビラトハ固才識庸劣ニシテ特、王ノ寵眷ニ依テ要路ニ當レルモノナリ故ニ國人其政ヲ悅ハ斯巴勒ノ和約殊ニ國論ニ戾リ且ッピト下院ニ在テ隨テ之ヲ謗毀シケレハ是歲王終ニ之ヲ罷メ更ニダレンビートルト云フ者ヲ以テ會計總裁トス然レモダレンビートルノ才力亦ピトニ及バス下院ノ議負

齊ルクス等新聞紙ヲ造テ頻ニ之ヲ詆輿論洵ガ
 タリ○千七百六十五年英國亞墨利加屬地ニ印
 稅ヲ課レ始テ難ヲ構フ時ニ英ノ屬地分レテ十
 三州ト為リ
ニ
三州ト為リ
ニ
三州ト為リ
ニ
三州ト為リ
 新ハニア南北カロリナゼオトルマサチ
マサチ
以下四州ヲ
黒白人口凡二百五十
 合称レテ新英倫ト名ツク
 萬諸州大抵共治ノ制ヲ用井テ各集議院一所ヲ
 置キ別ニ王ヨリ一人ノ長官ヲ命レ相議シテ政
 令ヲ施行ス是ヨリ先本國政府其富殷ナルニ垂
 涎シ七年戦争ノ間屢稅ヲ賦シテ軍費ニ資セン

トセリ然ルニ初英人ノ西州ニ移住スル者多ク
 ハ本國ノ暴政ヲ逃ル者ニシテ其艱苦ヲ跋涉レ
 新地ヲ墾開スル間本國曾テ之ヲ度外ニ置テ恬
 然トシテ顧ミス故ニ亞人本國ヲ恩戴スル意薄
 ク加フルニ英國ノ古法代貢ヲ徵サシテハ其
 地ニ稅ヲ課スルコトヲ得ス故ニ當時愛倫ノ如
 キ本國議院ニ代貢ヲ貢セサル者ハ別ニ其議院
 ヲ設ケテ貢稅ノ事ニ至テハ一々之ヲ公議セシ
 ム然ニ西州ノ諸部ハ未其法ナシ故ニ是ニ至ル
 迄亞人屢命ニ應セス是歲ダレンビル令ヲ下

シテ凡、金銀土地ノ證券及曆書新聞紙ノ類ニ至
 ル迄皆政府ノ印紙ヲ用ヰレメ其品ノ輕重ニ隨
 テ稅ヲ課スルニ至リケレハ諸州譁然トシテ之
 ニ抗シ王及本國議院ニ上書レテ曰ク西洲ノ民
 固ヨリ稅ヲ納レサルニ非ス但、王金ヲ得シコト
 ヲ欲セハ本國ノ例ニ倣テ其事ヲ各州ノ議院ニ
 下レ其獻納ノ數ハ議院之ヲ定ムルコトヲ得ン
 ト然レハ政府之ニ報セス十一月英船印紙ヲ齎
 ラシテ亞ノ地ニ至ルニ及テ人々相告ケテ曰ク
 先ッ之ヲ買フ者ハ罰アラント皆喪服ヲ著シ鐘ヲ

擊テ不服ノ意ヲ視メシ甚シキハ旗上ニ蛇ヲ畫
 キ切テ十三段トシテ其上端ニ連結セサレハ則
 死ナント書シ羣民之ヲ擁シテ街上ニ往來シ或
 ハ自由ノ字ヲ棺上ニ大書シ墓地ニ昇シ至テ之
 ヲ葬ル者アルニ至ル既ニシテグレンビル罷
 ラレテロッキンハムノ侯之ニ代リシカ侯固、ピット
 ト交アリピット亞入ヲ聚斂スルハ良策ニ非サル
 コトヲ説キ翌年春侯ニ勸メテ遂ニ印稅ヲ廢セ
 シム○ロッキンハムノ侯職ニ當テ後久シカラズ
 シテ罷メラレテ千七百六十六年ピットカザムノ侯

ニ封セラレテ又内閣ニ入り再、首輔タリ然レモ
 病ニ依テ事ヲ視ルコト能ハス是ヨリタウンセ
 ントト云フ者主トシテ事ヲ用キ千七百六十七
 年又亞國入港ノ茶葉、玻璃、及紙等ニ課シテ税ヲ
 收シム時ニ英國政府云ク本國議院ハ英國ノ大
 立法院タリ故ニ版圖ノ民ヲ拘束シテ法律ニ循
 ハシムル權アリト然ルニ亞人之ヲ拒テ曰ク版
 圖ノ民ト雖代貢ヲ貢シ其議ニ加ハル者ハ其制
 ヲ受ケテ可ナリ否サル者ハ法ヲ以テ之ヲ縛ス
 ルコトヲ得可カラスト相告ケテ又茶葉等ノ用

ヲ禁レボストンノ民亂ヲ作シケレハ全部益、淘
 マタリ后、千七百七十年ノルス國ニ當ルニ及テ
 獨、茶葉ノミヲ存シテ悉、他ノ税ヲ除キシカ亞人
 ノ訴フル所ハ固、税ノ煩簡ニ在ラス一物ト雖尚
 其税ヲ存スルトキハ是、本國未、税ヲ賦スル權ヲ
 去ラサルナリト其沸擾尚舊ノ如シ○亞人茶ノ
 用ヲ禁シテヨリ英國商人ノ蓄積セル茶葉皆賣
 ルコトヲ得ス然レモノルス尚亞港ノ税ヲ去ル
 ヲ難リ別ニ英國出港ノ税ヲ蠲テ其害ヲ救ハン
 ト千七百七十三年令ヲ下シテ凡、亞國ニ輸出ス

ル茶葉ハ特ニ其全稅ヲ除ス初亞國ノ稅ハ纔ニ
 三バンニ一ニ過キス故ニ今英國ノ全稅ヲ蠲ク
 ニ至テ亞國ノ茶價ハ稅ヲ課セサル前ヨリモ廉
 ナリ故ニノルス謂ヘラク甚計ヲ得タリト然レ
 凡群商茶ヲ載セ競テ亞港ニ至ルニ及ヒ諸港皆
 之ヲ陸ニ上ケス賤民ノ輩或ハ云フ船中載スル
 所ハ皆桎梏鐵鎖ノ類ニシテ其實ハ茶葉ニ非ス
 ト十二月十六日夜ボストンノ市人五十餘名土
 蠻ノ裝ヲ為シテ潛ニ英船ニ至リ悉其茶葉ヲ奪
 テ海ニ投シタリ是ニ於テノルス大ニ怒リ兵ヲ

以テ其驕恣ヲ懲サント前後數隊ノ兵ヲ發シテ
 亞墨利加ニ遣リシカ兵至ルニ及テ亞人糧食ヲ
 給セス家屋ヲ投ケス翌年春諸州ノ代貢大ニヒ
 ラデルヒアニ會シ再王ニ上書シテ其權利ヲ伸
 明シ尋テ英亞ニ國ノ貿易ヲ絶チ諸州往々陰ニ
 兵仗ヲ購蓄ス是ヨリ先千七百六十八年ビト病
 ヲ以テ罷ラレシカ是時再議院ニ在リ其他ホク
 スビルク等有識ノ士皆云クカヲ以テ人ヲ服ス
 ルハ良法ニアラズト論爭スレ凡王以下皆之ヲ
 用井ス英人ハ意氣驕漫ニシテ一意ニ亞人ノ其

君ヲ蔑スルヲ惡ミ亞人ハ英人強ヲ挾テ其下ヲ
 虐スト謂テ彼此ノ情相通セス遂ニ亂ム及ヘリ
 ○千七百七十五年四月多サエーモツノ州人潛
 ニ武器ヲボストンノ近傍ニ蓄フ英將ゲージ之
 ヲ毀タント輕兵數百ヲ派出シケレハ土人群起
 シテ之ヲ拒ミ十九日ゲージノ兵トレキンント
 ニ戰テ其半ヲ殺傷ス是亞國分立ノ初戰ナリ
 翌月ゲージ敗兵ヲ聚メテボストンヲ守ル近傍
 ノ亞人變ヲ聞テ來聚スル者二萬餘人隨テ之ヲ
 圍ミケレハ英國クリントンビルゴインハウ等

ノ諸將ヲレテ之ヲ援ケシム斯テ六月十六日攻
 兵ノ將プレスコト夜ニ乘シ邑後ノボシクル山
 ニ登テ壘ヲ築キケレハ英人之ヲ驅逐セント昧
 爽ニ兵ヲ進メテ仰攻ス時ニ亞人ノ壘壁未成ラ
 サリケレハ乾草ヲ積テ身ヲ掩ヒ且築キ且戰フ
 英軍再壘ヲ攻メテ再退キ死傷スル者算ナシ午
 後ニ至テ英軍復攻ム亞人丸盡キ銃ヲ倒マニシ
 テ壁ヲ攀ル者ヲ毆撃セシカ日暮竟ニ丈ハ得ス
 英人ニ壁ヲ奪ハル然レモボストンハ英人ニ在
 テ甚要地トセス加フルニ是月亞人華威頓ヲ推

テ元帥トシボストンニ遣テ益環攻セシカハ翌
年首春ゲーシ兵ヲ率井テスターテン島ニ退キ
翌日華盛頓代テ邑ヲ領ス○千七百七十六年七
月四日亞人國ヲ建テ亞墨利加合衆國ト名ツケ
檄ヲ移シテ其意ヲ諸國ニ告ク其略ニ曰ク天ノ
蒼生ヲ生スル固ヨリ上下ノ別ナシ且天之ニ與
フルニ必奪フ可カラサル權ヲ以テス政府ハ即
其權ヲ保護スル任ナリ故ニ若之ヲ毀壞シテ民
ヲ塗炭ニ陷サントスル時ハ之ヲ去テ更ニ其職
ニ稱フ者ヲ推戴ス是民ノ權也亦民ノ職ナリ然

ルニ今英王彼ノ奪フ可カラサル權ヲ奪テ此蒼
生ヲ奴隸ニセントス所謂之ヲ去ル秋至レルナ
リ故ニ吾曹別ニ國ヲ建テ、亞墨利加合衆國ト
稱シ自身家ヲ保スル計ヲ為セリト是ヨリ先亞
人フランキリン等ヲ佛ニ遣テ其援ヲ請フ佛國
未之ヲ許サスト雖密ニ彈藥ノ類ヲ借與シ國人
亦其意ヲ隣ニ間亞ノ地ニ至テ之ヲ助クル者ア
リ中ニ就テラテ云フ者其魁タリテ、
テハ佛ノ一貴族ニシテ此時十九歳亞墨利加ニ
至テ陸軍少將ニ任セラレ分立ノ間屢功ヲ立テ

改正 卷九 九

テ華盛頓ト兄弟ノ如シ○是歲八月ハウ兵ヲ分
 ケテロング島ヲ攻メ九月又ミルヨルクヲ攻ム
 並ニ亞人戰ハスシテ退走ス是ニ於テハ其部
 將コルンワリスニ命シテ亞人ヲ追ハシメ是歲
 冬遂ニ華盛頓ヲ德拉空ル河ノ西ニ追卻ス然
 レモコルンワリスハ敢ヘテ河ヲ渡ラス其東岸
 ニ沿テ營ヲ下シ冬ヲ過ス計ヲセシカハ十二月
 廿五日夜華盛頓返襲シテ之ヲトレントニ破
 リ又新ゼルジールヲ回復ス○千七百七十七年夏
 ハウミルヨルクヨリミササピールキ河ヲ泝テベン

シルバニアニ上陸シ日ヲ刻シテヒラデルヒア
 ヲ襲ハントスヒラデルヒアハ當時既ニ繁華ノ
 一都會ニシテ戰初ヨリ諸州ノ代貢常ニ此ニ會
 議シ此時又會ヲ開キタリ華盛頓新ゼルジールノ
 兵ヲ移シテ急ニ其救ニ赴キ九月十一日ハウノ
 兵ヲブランチーワインニ要シテ防キシカ英軍
 上流ヲ渡テ亞人ノ右ヲ襲ヒハ少中軍ヲ以テ其
 弊ニ乘シケレハ亞軍遂ニ敗走ス是ニ於テヒラ
 デルヒアノ議貢兵ヲ避ケテ會ヲラシカストル
 ニ移シ是月廿六日ハウヒラデルヒアヲ奪フ○

是歲夏ビルゴインカナダニ在テ一万餘人ヲ聚
 メ南方ノ軍ニ合セント少トソン河ニ傍テ南下
 シ連ニ城砦ヲ下シテサラトガニ達ス然レハ
 月十五日ペンニントンノ糧ヲ奪ハント謀テ利
 ヲ得ス九月十六日スチルヌートルニ戰テ小勝
 ヲ得シカ十月七日再スチルヌートルニ戰テ又
 大ニ敗ラル時ニビルゴイン孤軍重地ニ陷テ糧
 餉續カス加フルニ亞軍日ニ加ハリ亞人ノ一隊
 別ニハッドソンノ上流ヨリ追躡シ來テ其退路ヲ
 絶チシカハビルゴイン窘窮シ十月十六日其全

軍五千八百人皆降ヲ請フ○佛國ハ初ヨリ亞人
 ヲ助クルニ意アリト雖佛王亞人ノ其本國ニ叛
 クヲ惡テ觀望セシカビルゴインノ敗ヲ聞クニ
 及テ終ニ計ヲ決シ翌年二月六日其獨立ヲ許シ
 戰艦兵士ヲ遣テ戰ヲ助ク○是時國人益政府ノ
 失計ヲ咎ムル者アリノルス亦竊ニ悔イ三月自
 議院ニ至テ本國貢稅ノ權ヲ去リア人ト平ヲカ
 ンコトヲ建議ス其議始メテ出テシ時滿院相顧
 シテ皆愕然タリ然レハ亦敢ヘテ之ニ抗スル者
 ナク三月十一日遂ニ王ノ許可ヲ得テ五名ノ使

者ヲ發シ亞人ト其事ヲ商議セシム時ニノルス
ノ意兵ヲ罷ムルニ急ナリ密ニ使者ニ囑シテ曰
ク自主ヲ除ク外ハ悉ク亞人ノ請フ所ニ從フベシ
勉メテ事ヲ生スルコト勿レト然ルニ此議決シ
テ後二日佛國亞人ト好ヲ結フ報至リケレハノ
ルス益々狼狽シテ為シ所ヲ知ラス尋テ自官ヲ退
キピットヲ勸メテ之ニ代ラシム然レ氏王ノピット
ヲ忌ムコト是時愈甚シクピットモ亦命ニ應スル
コトヲ欲セス久シカラスシテノルス又官ニ復
ス○時ニピット老病ヲ以テ家ニ卧シカ和議起

ルト聞テ四月七日院中ニ至リ其不可ヲ論シテ
曰ク余ノ曾テ戰ヲ拒ミシハ今日アルヲ知レハ
ナリ然レ氏令我兵挫折シ且佛國新ニ赴援スル
時ニ當テ和ヲ講セハ英國ノ威ハ今ヨリ地ニ墜
チント然レ氏議院其論ニ從ハス後使者ヲ發シ
テ和議ヲ謀リシカ亞人ハ必ス自主ヲ得ントレ
テ其議協同セス是日ピット病篤クシテ起ツコト
能ハス其次子ギルレハト女婿マホントニ扶ケ
ラレテ院中ニ入り慷慨劇論スレ氏リッチモンド
ノ侯某固ク和議ヲ主トシテ頗不敬ノ語アリピッ

改正
十二

ト怒テ之ニ答ヘント再起立セシカ忽昏冥シテ
 地ニ倒レ傍人之ヲ院外ニ昇出ス後一月ヲ経テ
 遂ニ家ニ死セリピットノ父ハ素貧人ニシテ其産
 百ポンドニ過キサリシカピット才學ヲ以テ家ヲ
 起シ遂ニ國柄ヲ執リ世爵ヲ得ルニ至レリ不幸
 ニシテ王ニ不遇ナリト雖國人ノ為ニ景慕セラ
 ル、コト極メテ厚ク再政ヲ執ルニ及テ病テ事
 ヲ視ルコト能ハスト雖諸文書ピットノ名アレハ
 人乃之ヲ敬セリト云フ其第二子棄ルレム、ピット
 亦才略アリ後又父ニ繼テ聲名アリ○是歳三月

ハウ自請テ英ニ歸リシニヨリテクリントン之
 ニ代テヒラデルヒアノ軍ヲ督セシガ尋テ邑ヲ
 棄テ、退キケレハ華盛頓之ヲ追テ新ゼルジ
 ニ至リ又ヒラデルヒアヲ復ス○千七百七十九
 年三月西班牙合衆國ノ獨立ヲ許シ同八十年和
 蘭モ亦之ヲ許シ共ニ佛ト合シテ英國ト兵ヲ構
 フ是ニ於テ四國ノ軍艦洋面ニ馳テ互ニ雄
 長ヲ争ヒ戦争紛々タリ○千七百八十年夏小民
 亂ヲ起シテ倫敦ヲ劫掠ス是ヨリ先舊教ノ徒ヲ
 處スル法尚峻酷ヲ極メテ其徒タル者ハ往々土

地ヲ買ヒ田産ヲ有ツコトヲ得サルニ至ル是歲
 議院始メテ其禁ヲ除キンカゴトルドント云フ
 者狂悖ニシテ亂ヲ好ミ政府又舊教ヲ興スト唱
 ハテ愚民ヲ煽動セシナリ時ニ政府警備ニ乏レ
 ク之ヲ制スルコト能ハス六月二日叛徒數万人
 倫敦ニ亂入シテ寺觀ヲ焚キ邸宅ヲ毀チ數日ノ
 間街上ニ群聚號呼シテ滿都之カ為ニ填咽セシ
 カ既ニシテ八日ゴールドニ縛ニ就キケレハ叛
 徒隨テ星散シ巨魁二十餘人誅ニ服ス○是歲ク
 リントンモールストンヲ圍テ之ヲ取リ尋テ佛

ノ軍艦大ニ至ルト聞キ其部將コルンワリスヲ
 止メテモールストン及南カロリナヲ守ラシメ
 自モールワリスニ至テ佛軍ニ備フ然レモ戰起テ
 以來凡本國ノ處置皆宜ヲ失シ糧食兵馬多ク意
 ノ如キコトヲ得ス是ヲ以テクリントン遂ニ辭
 職シコルンワリス之ニ代テ亞ノ地ノ總兵タリ
 ○千七百八十一年コルンワリス七千ノ兵ヲ以
 テヨーク、タウンニ在リ華威頓及テラマテ等兵
 ヲ合シテ之ヲ圍ミ十月八日ヨリア軍大礮ヲ放
 テ攻撃シ晝夜止マヌ十四日ニ至テ遂ニ其二岩

ヲ陷イレ益之ヲ急攻シケレハコルンワリス支
 フルコト能ハス十九日全軍華威頓ノ營ニ至テ
 降ヲ請フ是ニ於テ亞ノ地全ク英軍ナシ○千七
 百八十二年四月十二日英ノ水軍佛人トシニア
 西印ノ洋面ニ戰テ大ニ之ニ勝チ佛人ヲ殺傷ス
 ルコト七千餘人其船六艘ヲ奪ヒ其他銃砲金錢
 等獲ル所無數ナリ然レ此間英軍多ク利アラ
 ス前年ヨリ是歲夏ニ至ルマテミノルカ等ノ數
 地ヲ失フ○時ニ講和ノ說復起リ國人皆兵ヲ罷
 メテ民ヲ息ヘンコトヲ欲スレ王獨快ヤトシ

テ樂マス既ニシテミノルカノ敗報至ルニ及テ
 議院益和議ヲ主張シ且ノルスノ不能ヲ咎メケ
 レハ是歲三月ノルス官ヲ罷メロッキンハムノ侯
 再首輔タリ○戰初已來英將エルリホト五千餘
 人ヲ以テジブラタルヲ守リ西人之ヲ長圍シ
 テ既ニ三年ヲ歷タリ千七百八十一年四月中旬
 ヨリ五月ノ終ニ至ル迄攻兵放ツ所ノ丸數五万
 六千ニ及テ城中死スル者僅ニ七十人ニ過キス
 是歲孟春西將クリルロント云フ者ミノルカラ
 陷イレテ其歸途ジブラタルノ攻兵ニ加ハリ

且佛人モ亦來援シケレハ又攻戰ヲ議シ春ヨリ
 秋ニ至ル迄日々ニ之ヲ砲擊スレハ城中竟ニ屈
 セス九月十三日クリルロン又大舉シテ城ニ逼
 リケレハ城兵烙丸ヲ放テ之ニ應シ夜ニ入テ未
 已マス西船ハ重厚ナルヲ以テ烙丸其腹板ニ止
 マリ薄暮忽テ火ヲ發セシカ夜半遂ニ諸船ニ延燒
 シ炎焰海ヲ照シ曉ニ至テ西船盡ク燒亡シタリ
 是夜戰卒火ニ燔カレ水ニ溺レテ死スル者數ヲ
 知ラス其叫喚ノ聲城中ニ聞エケレハ城中見ル
 ニ忍ヒス船ヲ下シテ之ヲ救ヒ其傷痍ヲ療シテ

之ヲ放還ス然レハ此役ノ後西人尚退カス後諸
 國和成ルニ至テ其圍始メテ解ケタリ○是歲秋
 英國遂ニ和議ニ決シ九月三十日先合衆國ノ獨
 立ヲ許シ翌年春又西佛二國ト和ス和蘭ハ獨此
 議ニ與カラサリレカ數月ノ後遂ニ之ニ加ハリ
 千七百八十三年九月三日五國巴勒ニ會盟シテ
 兵ヲ息ム○ロッキンハムノ侯政ヲ執テ後久シカ
 ラスレテ死シセルボルン及ホルトランノ二人
 相續テ之ニ代リレカ亦皆罷メラレテ千七百八
 十四年ウネルレム、ピット會計總裁ト為ル時ニ年二

十五ナリ議院中往々其年少ヲ議スル者アリ然
 レ其才鋒固ヨリ群ニ出テ加フルニ國人其父
 ノ故ヲ以テ之ヲ推選シ遂ニ顯官ニ上レリ時ニ
 連年ノ戰事ニ因テ國債又一億ポンドヲ増シ亂
 未ニ至テハ政府困頓シテ數千ノ兵ヲモ備フル
 コト能ハスピト國ニ當テ首トシテ會計ノ事務
 ヲ釐正シ倉庫ヲ補充ス尋テ翌年始メテ奴隸ノ
 廢禁及ヒ議院ノ改革ヲ建議セシカ其議未行ハ
 レス○千七百八十四年ビトノ議ヲ用井テ東印
 度ノ為ニ別ニ一官署ヲ設ケ印度通商ノ事ヲ司

ラシム○クライブノ死後ハスチングスト云フ
 者之ニ繼テカルキタマドラス等ノ三地ヲ管領
 シ紀律ヲ修明シ土酋ヲ征服シ千七百八十五年
 其英ニ歸ルニ當テ四隣懼服シ疆土益廣シ然レ
 氏其在職ノ間横歛凌虐ノ事亦少カラス是歲ビ
 ルク其罪ヲ議院ニ訴ヘピトホックス等之ヲ羅織
 シテ遂ニ大獄ト為リシカ議院其功ヲ追念シ後
 七年ヲ經テ之ヲ放釋ス○千七百八十八年十一
 月王心疾ニ罹テ政ヲ聽クコト能ハス就新黨ノ
 人世子ゼオルジヲ以テ政ヲ攝セシメントス然

レヒピット其古例ニ非ルコトヲ謂テ之ヲ許サス
 議院ニ下シテ其故事ヲ求メシカ翌年二月其議
 未決セスシテ王ノ病常ニ復ス世子年長シテ放
 侈度ナシ王ハ性質縝密ナルヲ以テ之ヲ容ル、
 コト能ハス故ニ世子ハ就新黨ニ結托シテ日ニ
 王ト隙アリ○千七百八十九年佛國ノ大亂始メ
 テ起リ國會貴族高僧ヲ逐テ政權ヲ奪ヒ巴勒ノ
 小民群起シテ牢獄ヲ破リ罪囚ヲ放チ權臣勲貴
 ノ執ヘテ之ヲ刑殺スルコト日ニ數十人其兇暴
 實ニ千古ニ絶ス英ハ隣國ニ在テ始終ヲ傍觀シ

其義舉ヲ稱讚スル者アリ又其濫刑横恣ヲ痛斥
 スル者アリテ有識ノ人ト雖往々議論一ナラス
 議院中ビルク書ヲ著シテ其末路土崩瓦解ニ至
 ランコトヲ論シ深ク佛人ノ過激ヲ罪シケレハ
 ホツクスノ黨人又書ヲ著シテ曰ク過激ハ大亂ノ
 常事過激ニ非レハ其憤ヲ洩スニ足ラスト國中
 隨テ黨ヲ樹テ會ヲ結ヒ互ニ相排撃シテ往々亂
 ヲ生シ政府頗ル警心アリ○千七百九十一年六月
 佛王ルイス第十六世巴勒ヲ逃シントシテ執ハ
 ラレ亂徒遂ニ其后及世子ヲ併セテ之ヲ幽閉ス

改正 英史 卷九 六

時ニ佛ノ王族諸侯亂ヲ避クル者皆日耳曼ノ境
 土ニ至テ一軍ヲ為シ頻ニ日帝ノ援ヲ得テ王ヲ
 救ハント請フ佛王ノ后ハ日帝レオポルドノ妹
 ナリ故ニ日帝殊ニ佛王ノ不幸ヲ憐ミ是歲八月
 宇漏生王フレデリックトピルラツニ會シテ密ニ
 兵ヲ起サント議シケレハ佛國聞テ之ヲ詰リ翌
 年三月遂ニ日耳曼ト兵ヲ構フ尋テ俄羅斯西班
 牙以太利等ノ諸國皆日耳曼ヲ援ケテ戰ニ與セ
 リ然レハ英國ハ尚局外ニ於テ觀望セシカ千七
 百九十三年一月佛人遂ニ王ヲ刑シテ共和ノ制

ヲ立テ檄ヲ諸國ニ移シテ各國若其君ヲ去リ佛
 國ト共治ノ政ヲ同レクセンコトヲ欲スル者ハ
 皆之ヲ助ケント云ヒケレハ英國怒テ佛ノ公使
 ヲ逐ヒ是歲二月遂ニ又兵ヲ構フ○是歲佛人兵
 ヲ發シフランドルスニ入テ和蘭ヲ攻ム王其次
 子フレデリックヲ遣リ日耳曼ト策應シテ之ヲ援
 ケレカフレデック無能ニシテ任ニ堪ヘス翌年
 英ニ歸リケレハワルモーデント云フ者代テ軍
 ヲ領ス○千七百九十四年英人コルシカ島ヲ攻
 メテ之ヲ取り六月一日英將ハッ佛ノ戰艦トブ

レストノ海上ニ戦テ又大ニ之ヲ敗ル○是歳ノ
間フランドルスノ佛軍凡五十万モロゾル
ドンペンシガリユ一等之ヲ號令シ英日等ノ軍二十
餘万之ト戦テ屢利アラヌ千七百九十五年一月
十六日佛軍安特堤ヲ奪ヒ和蘭國ヲ舉テ降ヲ請
ヒ其國名ヲバタビアト改メテ佛ニ屬ス○初、字
王フレデソッキ戦ヲ起シテヨリ竊ニ兩端ヲ持セ
シカ是歳和蘭ノ滅フルニ至テ遂ニ同盟ニ背テ
佛ニ與ス○是歳英人喜望峰ニ屬ス和蘭ヲ攻メテ
之ヲ取り其他錫蘭マラカコチン以上東印度ヲ

ラベルバイス以上西印度並等ヲ奪フ○時ニ英
國草莽ノ徒尚佛國ノ舉動ヲ誤認シテ義舉トス
ル者アリ加フルニ是歳秋會凶荒ニシテ物情頗
穩ナラス十月王公會ヲ開カントシテ議院ニ至
ル途中風砲ヲ以テ王ノ駕ヲ觀擊スル者アリ其
他群民木石ノ類ヲ亂投シ王院中ニ入ルニ及テ
竟ニ其駕ヲ奪テ之ヲ擊碎ス王令ヲ下シテ之ヲ
窮治シ刑ヲ蒙ル者亦衆シ○千七百九十六年春
西班牙亦佛ト和シ和蘭ト謀ヲ通シ三國相約シ
テ英ヲ攻メントス○千七百九十七年三國各軍

艦ヲ裝テブレスト佛ガジース西テキスル蘭等ノ諸港ニ在リ二月廿四日英船十五艘ゼルビスヲ將トレ子ルソシ之ニ佐トシテ西船二十五艘トセント、ビンセントノ海角ニ戰ヒ西軍敗走ス

○同十月和蘭ノ海軍大將奔ントルテキスルノ軍ヲ率ヰテブレストニ至ラントマル途中英ノ大將ドンカン之ヲ追テ十一月コンベルダウシノ洋面ニ戰ヒ敵船九艘大砲五十六門ヲ奪フ○是歳スピットヘットノ水軍俸給ノ足ラサルヲ怒テ叛ヲ謀リ尋テメドローノ軍艦亦叛シ其船二十

五艘テームス河口ヲ圍ミ其訴ヲ伸ヘント請フ政府之ヲ慰解スレバ聽カス是ニ於テスピット海岸ヲ防禦シ悉、薪水ヲ絶テ之ヲ窘困セシカ久シクシテ叛徒自魁首ヲ捕ヘテ降ヲ請ヒ其事遂ニ息ミタリ○前年佛將那波列翁以多利ニ在テ全土ヲ壓服シ是歳春六万ノ兵ヲ以テ墮地利ニ攻入セシカハアルチヰークギールス敵スルコト能ハスシテ和ヲ請ヒ十月十七日カンボ、ホルイオニ於テ遂ニ佛ト盟フ是ヨリ先俄羅斯ハ同盟ニ加ハルト雖未、兵ヲ出サス是ニ至テ尚佛ト頡頏

スル者ハ獨英國ノミナリ○千七百九十八年那
 波列翁陸軍二万ヲ以テ地中海ニ入り其途中マ
 ルタ島ヲ取り更ニ進テ埃及ニ航ス其計埃及ヲ
 取テ印度ニ出テ英ノ屬地ヲ奪ハントスルナリ
 子ルソン那波列翁ノ帆ヲ揚クルヲ聞テ直ニ軍
 艦ヲ發シテ之ヲ追ヒ海上ニ物色スルコト累月
 八月一日ナイル河口ニ至テ佛ノ軍艦ニ逢ヒ大
 ニ之ト戦フ時ニ那波列翁ハ既ニアレキサンド
 リアニ上陸シ從行ノ軍艦僅ニ十二艘港口ニ碇
 泊セリ是日晚ニ及テ戦起リ劇戦幾一日二夜佛

將其船四艘ヲ以テ遁走シ三日ノ朝ニ至テ佛船
 全キ者ハ僅ニ二艘アリ内一艘ハ英軍ニ降り一
 艘ハ佛人自之ヲ燒焚ス○諸國子ルソンノ大捷
 ヲ聞テ又興起スル者アリ千七百九十九年俄羅
 斯奧地利子ープルス等再兵ヲ起シ俄羅斯ノ將
 シワルロロ以多利ニ入テ悉佛ノ侵地ヲ奪還ス
 後轉シテ瑞士ニ入りシカ奥兵ト相和セサルニ
 因テ大ニ功ヲ得ス尋テ英國俄羅斯ト謀テ又和
 蘭ニ入りヨルクノ侯二國ノ兵ヲ號令シヘルド
 ル等ノ數邑ヲ降シ、カ十一月ジーベニ在テ佛

蘭ノ兵ニ歴セラレ悉ク俘虏ヲ放還シ其得ル所ノ
 地ヲ棄テ、英ニ旋師ス○那波列翁埃及ニ入テ
 後アレキサンドリアヲ奪ヒカイロヲ取り沙漠
 ヲ絶テシリアニ出テアクレノ邑ヲ圍ミシカ英
 將レドニール土耳其ノ兵ヲ援ケテ之ト戦ヒケレ
 ハ二月ヲ経テ那波列翁邑ヲ下スコト能ハス既
 ニシテ本國ノ政令修マラス征戦屢敗歟シ民心
 離反スト聞テ是歳十月軍ヲ埃及ニ遣シテ單身
 佛ニ歸リ十一月遂ニ紀綱ヲ一變シニコシヒル
 ヲ置テ政ヲ為シ自其一ニ補セラル○千八百年

ピットノ議ヲ用井愛倫ノ議院ヲ廢シテ本國ニ合
 併シ愛倫ヨリ貴族三十二名代員百名ヲ貢セシ
 ム愛倫ハ僻遠ノ故ヲ以テ土人亂ヲ好ミ佛國ノ
 事起テヨリ屢佛人ヲ誘テ國ニ入レント謀リ其
 反覆殊ニ甚レ是歳ウルフト云フ者又亂ヲ起シ
 、ニ因テピット遂ニ議院ニ勸メ蘇格蘭ノ例ニ倣
 テ二國ヲ併一セレナリ千八百一年一月一日ヨ
 リ此議ヲ施行シ是ヨリ大不列顛及愛倫ノ議院
 ト稱ス○是歳那波列翁自以多利ニ至テ日耳曼
 ノ兵ト戦フ日軍屢利アラヌ十二月二日ホーヘ

ンリンドンニ戰テ日軍又大ニ破ラレ日耳曼又
 佛ト和ス○是歲英國マルタ島ヲ攻メテ之ヲ奪
 フ○千八百一年一月二十二日愛倫及不列顛ノ
 議負始メテ倫敦ニ會ス法教改革ノ時以來是ニ
 至ル迄舊教ノ徒ハ尚ホ議負ニ撰マレ及官ヲ受ク
 ルコトヲ得ス此法酷ニ過クルヲ以テピット久シ
 ク之ヲ廢セントセレカ愛倫ニハ尚ホ舊教ノ徒多
 キヲ以テ此會中ピット其禁ヲ除テ愛倫人ニ便セ
 ント建議セシニ王之ヲ聽カス尋テピット官ヲ罷
 メアシントント云フ者之ニ嗣キタリ○是歲春

初瑞典噠馬俄羅斯北海ノ貿易ヲ争テ英ト不和
 ヲ生ヌ那波列翁之ヲ聞テ陰ニ三國ヲ啖レケレ
 ハ三國遂ニ連盟シ後宇漏生モ亦之ニ加テ共ニ
 英ニ抗ス是ニ於テ英將ハイドパルクル大艦十
 八艘ヲ督シチルソン其副トシテ共ニバルチキ
 海ニ赴キ四月二日コペンハーゲン噠馬ニ至テ大
 ニ噠馬ノ船ト戰フ是日バルクルハ港外ニ止リ
 チルソン獨其船數ノ半ヲ以テ港中ニ入りシカ
 敵ノ大砲凡ニ千餘門其船數モ亦迫ニ相敵セス
 チルソン衆ヲ督シテ苦戦スル際其船二艘忽チ暗

礁ニ嬰リタリパルクル之ヲ見テ急ニ退軍ノ號
 ヲ上ク然レモ子ルソン見サル狀ヲ為レテ進撃
 ノ號ヲ其船ノ樞梢ニ釘着シ又戦フコト稍久シ
 クシテ敵船盡ク旗ヲ下シ降ヲ請ヒタリ此戦ノ
 後子ルソン書ヲ噍馬王ニ寄セテ講和ヲ勸メシ
 カハ王其議ニ從テ又和ヲ結ヒ又其間俄羅斯帝
 パウル其臣ノ為ニ殺サレ其子アレキサンドル
 第一世之ニ繼テ立チ又佛ニ叛テ英ト和セレカ
 幾何ナラスシテ瑞典亦之ニ加ハリ六月十七日
 俄瑞噍英四國再親交ヲ結フ是ニ於テ北方ノ會

盟又破レタリ○埃及ニ於テハ是歲三月初旬英
 將アベルクロンビーエボーキル灣ヨリ上陸シ
 テ十八日エボーキル城ヲ取り同廿一日佛將メ
 ノートカイロノ近傍ニ遭ヒ苦戦スルコト半日
 餘兩軍彈藥既ニ盡キ石ヲ投シ奮闘スルコト又
 久シクシテ佛軍終ニ敗レメノ一邑内ニ退キタ
 リ此役アベルクロンビー重傷ヲ蒙リ後數日ニシ
 テ死シケレハヒンソント云フ者代テ其軍ヲ
 督シ六月廿四日ニ至テ遂ニカイロヲ陷イル其
 後ヒンソン再メノ一ヲアレキサンドリアニ

圍テ八月廿二日又之ヲ降シ其全軍一万餘人英
 人為ニ船舶ヲ辨シテ之ヲ佛ニ護送シ埃及悉平
 定ニタリ○初千八百年那波列翁コンヒルニ補
 セラレテ後英ト書牘ヲ往来シテ兵ヲ罷メント
 議セシカ佛ノ求ムル所倨傲ナルヲ以テ英國之
 ヲ許サス其後和議數次ニ及ヘ成ラス是歲埃
 及ノ敗ヲ聞クニ及テ那波列翁始メテ屈シ十月
 一日前議ヲ尋テ權ニ和ヲ約シ千八百二年三月
 廿八日遂ニアミーンス佛地ニ於テ盟ヲ然レ
 此約中英國悉和蘭西班牙等ノ侵地ヲ還シ纔ニ

ツリニダール錫蘭ノ二地ヲ保テ佛ノ横奪セル
 地ハ毫モ裁截ヲ加ヘス故ニ識者其久シキニ堪
 ヘサルコトヲ知レリスアミーンスノ約後幾
 何ナラサルニ佛人諸屬地ノ不服ヲ討スト宣言
 シ大ニ和蘭佛蘭西等ノ諸港ニ戰艦ヲ艦シケレ
 ハ英國モ亦陰ニ兵ヲ募リ海軍ヲ補足シ二國互
 ニ約ニ背クヲ責メテ往復難詰シ釁隙日ニ深シ
 千八百四年春那波列翁事ニ由テ英ノ公使ヲ朝
 堂ニ詆罵シ杖ヲ舉ケテ之ヲ擊ントス公使モ亦
 劔ヲ按シテ之ニ向ヒ二人辭色共ニ厲シ後公使

屢其辱ヲ訴フレ用ヰラレス五月十三日怒テ
 巴勒ヲ去リ英國佛ノ公使ヲ逐テ二國遂ニ又兵
 ヲ構フ是歲佛人兵ヲ出シテハノーブルヲ奪ヘ
 リ○千八百四年アジントン事ニ堪ヘサルヲ以
 テ罷メラレ、ピット又舊官ニ復ス○是歲四月英國
 俄羅斯ト盟ヒ尋テ瑞典奧地利モ亦之ニ加ハリ
 連合シテ又佛ニ敵ス然レ、ル寺漏生ハ尚ホ泛然ト
 シテ中立セリ既ニシテ英西二國又釁ヲ生シ十
 二月西人英ト絶ス○是歲五月十五日那波列翁
 國ヲ篡テ帝ト稱ス○千八百五年佛國陸軍十五

万ヲ備ヘブレストトローンカジーズノ三港ニ
 船ヲ集メ西人ト謀テ大ニ英ヲ攻メントス前年
 ノ冬ヨリ子ルソン軍艦ヲ以テ地中海ニ往来シ
 其舉動ヲ偵視セシカ是歲十月十九日カジーズ
 ノ軍艦港ヲ出テジブラタルニ向ヒシカハ子
 ルソン纜ヲ解テ急ニ之ヲ追ヒ十月廿一日トラ
 ハルガルノ海角ニ要撃シテ大ニ之ヲ破レリ此
 戰西佛ノ軍艦三十五艘英船二十七艘英人敵ノ
 大船十九艘ヲ奪ヒ戰卒一万二千ヲ擄ニセシカ
 戰酣ニシテ子ルソン丸ニ中テ死セリ之ヲトラ

ハルガルノ戦ト名ツケ古今劇戦ノ一ナリ時ニ
 子ルソニ年四十八歳始メテ海軍ニ任セラレシ
 ヨリ是ニ至テ三十餘年大小凡百二十戦英國海
 軍ノ大将前後其右ニ出ツル者ナシ○是歳五月
 那波列翁自以多利ニ至テ其王ト為リ尋テ英ニ
 備フル所ノ軍ヲ以テ日耳曼ニ入り十一月十三
 日ビーンナヲ取り十二月二日俄日二帝トオリ
 ステルツニ戦テ又大ニ之ニ捷ツ此戦ノ後俄
 帝兵ヲ引テ自國ニ歸リシカハ日帝フランシス
 又和ヲ佛ニ請ヒ日耳曼ノ帝號ヲ去テ奧地利ノ

帝ト稱ス是ニ於テ英俄互援ノ路絶エタリ○ピ
 ト性固多病加フルニ連年國事ニ勤勞シテ身軀
 衰憊レ日耳曼ノ敗報ヲ聞ニ及テ人ニ語ケテ曰
 ク今ヨリ十年ノ間歐洲ノ地圖ハ尚用サル所ナ
 シト大洲ノ戦争ニ心ヲ費ス千八百六年一月廿
 三日竟ニ憂ヲ以テ死ス年四十七歳ピト要路ニ
 在ルコト前後二十年ニシテ尤清廉ナリ死ニ及
 テ家極テ貧窶逋債四万ポンドアリ議院為ニ之
 ヲ代償ス○ピトノ死後王グレンビールヲ以テ
 會計總裁トシホックスヲ以テ外務總裁トシホ

省ノ長ニ補ス既ニシテ是歲九月十三日ホックス
 ノ死スルニ會ヒホーネック外務總裁ニ轉シトマ
 ス、クレンビールト云フ者海軍ノ長タリ○是歲
 ノ間那波列翁其兄ジセフヲ以テ子ーブルスノ
 王トシ又其弟ルイスヲ以テ和蘭ノ王トシ以多
 利ノ南部ヲ十二侯國ニ分ケテ悉其寵臣ヲ封シ
 又日耳曼ノ西南十四部ヲ合シテラインノ聯邦
 ト名ツケテ佛國ノ指揮ヲ受ケシム初千八百五
 年那波列翁ノ日耳曼ニ入ルトキ李漏生獨同盟

ニ加ラス戰ノ後佛帝ハノーブルヲ贈テ其報ト
 セシカ此時佛國英ト和ヲ議シ其中ハノーブル
 ヲ英ニ還サントノ約アリ李王之ヲ聞キ怒テ兵
 ヲ舉ク然レテ十月十四日ゼナ及オーエルスタ
 トノ二所ニ於テ大ニ佛軍ノ為ニ破ラレ兵起テ
 ヨリ未半月ヲ出テサルニ又和ヲ請ヒタリ○千
 八百七年ホーネック舊教ノ徒ヲ許シテ海陸軍ニ
 用井ント議シ其議合ハサルヲ以テ官ヲ罷ム是
 ニ於テクレンビール等モ亦罷メラレポルトラ
 ンドノ侯某會計總裁ニ任レテ首輔ト為リカン

ニシクト云フ者外務總裁ニ任シ其他點陟尚多
 シ○是歲英國始メテ奴隸ヲ貿易スルコトヲ禁
 ス凡ソ西洋諸國ニ於テ奴隸ト稱スル者ハ其由テ
 專ラ千五百年ト稱スル頃葡萄多ク其亞非利加
 ナク千五百年ト稱スル頃葡萄多ク其亞非利加
 奴ヲ千五百年ト稱スル頃葡萄多ク其亞非利加
 壑ノ用ニ充テシヨリ之ヲ西班買スルコト起
 英國ニハエリサダノ西岸ニ始メテ其貿易ヲ
 允許ス其法亞非利加ノ西岸ニ始メテ其貿易ヲ
 テ浴海ノ土人内地ノ人ヲ掠メテ賣ル自岸ニ上
 鹽又遊戯ノ具ニ易ル者アリ而シテ舟中密室ノ
 加ニ送テ諸國ノ屬地ニ賣ルナリ其舟中密室ノ
 中ニ閉鎖セラルル者アリ而シテ舟中密室ノ
 百中ノ三十分ノ一人ヲ買フ者之ヲ鎖ニ繫テ地
 ヲ關キ野ヲ耕ハサレバ鞭コトヲ以テ驅是ヨリ先
 使スルコト牛馬ニ異ナル鞭コトヲ以テ驅是ヨリ先

二十餘年ノ間頻ニ其不仁ヲ唱ヘ屢其禁ヲ院中
 ニ建議スル者アリト雖未行ハレズ是歲クラル
 クソソ等又之ヲ建議シ討論稍久シクシテ二院
 ノ評定ヲ經三月廿五日終ニ王ノ許可ヲ得タリ
 後千八百十一年律ヲ定メテ曰ク禁ヲ犯ス者ハ
 十四年ノ追放ヲ以テ之ヲ罰セント同廿四年又
 之ヲ嚴ニ論スルニ海賊ヲ以テシ死刑ヲ以テ
 之ヲ處ス然レバ三十七年ニ至テ又之ヲ改メ方
 今ハ終身之ヲ追放ス○是年土耳其俄羅斯ト兵
 ヲ構ヘ尋テ又英ト絶ス那波列翁飛語ヲ作テ三

國ノ交ヲ離間セルニ因ルナリ後七月七日俄羅斯モ亦佛ト和シ[○] 宇漏生ト共ニ諸國ノ英ニ貿易スルコトヲ禁シテ英ヲ窘窮セントス此和約中那波列翁宇漏生ヲ割テ其一分ヲサクソニノ部長ニ與ヘ又一分ヲ以テ[○] 空ストハリアノ王國ヲ建テ其弟ゼロームヲ封レテ王トス是ニ於テ宇漏生ノ版圖ハ舊時ノ半ニ過キス初[○] 宇王ハノイブルニ垂涎シ私利ヲ挾テ同盟ニ加ラス是ニ至テ全歐洲皆之ヲ快トス○時ニ北方諸國又悉佛ニ脅從セラレ[○] 噠馬獨之ニ與セスト雖諸國ノ

間ニ攝セラレテ其意ヲ行フコト能ハス英國其軍艦ノ敵ノ用ト為ランコトヲ懼レアルニ[○] 空ルレスレ[○] 序空ルリント[○] 噠馬ニ遣リ[○] 軍艦ヲ假テ之ヲ護ランコトヲ請フ然レ[○] 王ノ聽カサルニ依テ九月五日遂ニコベンハーゲンヲ火攻シ強ヒテ之ヲ奪ク是ニ於テ噠馬モ亦英ノ敵タリ○千八百八年那波列翁葡萄牙ヲ陷イレ尋テ西班牙王[○] 第四世ヲ廢シ[○] セフヲ以テ其王トス二國ノ民兵ヲ起シテ之ニ及キ英ノ救ヲ請ヒケレハ英國乃[○] 空ルレスレ[○]

一萬ノ兵ニ將トシテ葡萄牙ニ遣テ八月廿一
 日大ニ佛人ヲビミラニ破ル尋テ英國ダ
 ンプルヲ遣テ空ルレスレニ代ラシメシカ
 レルリンプル無能ニシテ機ヲ失ヒ佛人ト約ヲ立
 テ、從容トシテ退カシム空ルレスレハ功ヲ
 リテ賞セラレス諸將ニ屈下スルヲ恥テ後獨英
 ニ歸レリ其後十一月英將ジムールニ萬人ヲ
 以テ西ニ入り進テサラマンカニ至リシカ西人
 期ヲ愆テ來會セス時ニ那波列翁ノ軍八萬其將
 スールトト共ニ西班牙ニ在リムール其敵ス可

ラサルヲ見テ軍ヲ還シコロナニ至ル比
 ルトノ軍追從ニ來リケレハ千八百九年一月十
 六日反戦シテ兵士ノ乗船ヲ扞護シ其身巨丸ノ
 為ニ胸ヲ碎カレテ死ス然レモ晩ニ至テ佛軍潰
 走シケレハ十八日英軍間ヲ得テ船ニ乗シ纔ニ
 覆敗ヲ免レタリ○千八百九年春空ルレスレ
 再ヒ葡萄牙ニ上陸シテ四月廿二日リスボンニ
 入り後數日スールトオポルトニ戦テ之ヲ破
 リ其軍ヲ追テ竟ニ西ノ境ニ入り西將クアイタ
 ト合シテタラベラニ陣ス七月廿六日佛將ビク

トルセバスタニアニ一等来テ之ヲ攻メ三日ニシテ邑ヲ奪フコト能ハス廿八日晚ニ至テ佛軍兵ヲ退ク空ルレスレ一功ヲ以テ空ルリントノ侯タリ然レモ佛軍ノ將ビクトルスールト子一モルチール等其兵二十万人又タラベラニ向テ四聚シケレハ英軍再退テ葡萄牙ヲ保ス○是歲澳帝又兵ヲ起シテ又破ラレ十月十四日ヒンブルーンニ和ヲ約シ其女マリアヲ以テ那波列翁ニ嫁ス初澳地利ノ兵ヲ起スニ當テ英國之ヲ聲援セントカザムノ侯及海軍少將ストラヤンニ

水陸ノ軍ヲ附シテアシント空ルフニ遣リレカニ將逗撓ニシテ機會ヲ失ヒ幾ニ千万ポンドノ金ヲ費シテ寸功ヲ奏セス○千八百十年王ノ心疾復起リ是ヨリ死ニ至ル迄愈エス世子ゼオルシヲ以テ攝政トス○是歲ノ間佛將多セナ九万人ヲ以テ空ルリント西班牙ニ對峙ス時ニ空ルリントノ兵七万ニ超ユト雖多クハ葡人ニシテ怯懦用ヲ為サス九月二十七日佛兵トシールラハデ、ボッサコニ戦テ之ヲ追卻センカマッセナポイアルバノ山路ヲ繞テ英軍ノ左ニ出テケレハ

空ルリントン又退キ十月八日トルンス、ベド
 スニ入テ之ヲ保ス此地ハ山川圍繞シテ三層ヲ
 為シ層後ニ邑アリ英人險ニ據テ堡壘ヲ設ケ甚
 防守ニ便ナリ後三日マツセナ追ヒ至リレカ其攻
 ム可ラサルヲ察シ又兵ヲ引テ去レリ○初千八
 百六年那波列翁ベルリンヨリ令ヲ出レテ諸國
 商人、英ト往来通商スルコトヲ禁シ其後俄羅
 斯宇漏生等ト約レテ其禁ヲ強フ故ニ英國モ亦
 禁ヲ出シテ佛ト諸國トノ通商ヲ絶テリ然ルニ
 亞墨利加合衆國ハ全ク局外ニ在テ其船之カ為

ニ辱ヲ受クル者間多シ又英國ノ水夫逃亡シテ
 亞國ニ至ル者英人亞船ニ入テ恣ニ搜索シ本土
 ニ歸テ籍ニ復セシム其間亞人ニシテ誤テ脅從
 セラレ舟中苦役ニ服スル者アリ此等ノ争端數
 年ノ間論難決ヤス千八百十二年英人亞國ノ為
 ニ通商ノ禁ヲ去リシカ亞人既ニ晚シト謂テ遂
 ニ兵ヲ構フ是歲亞ノ陸軍大將ヒール二千五百
 人ヲ以テカナダニ入伐セシカ英將ブラク擊テ
 之ヲ卻ク○千八百十一年空ルリントン再、ベド
 ラスヨリ出テ是ヨリ三年ノ間スールトマルモ

ント言ハルダン等ト相追逐ス所謂ベニンシラ
 ノ戦ト稱スル者ニシテ奇勲偉烈實ニ少カラズ
 然レモ事蹟繁劇ナルヲ以テ今之ヲ詳載セス千
 八百十一年五月三日英軍大ニ佛軍ヲヒンテス、
 デ、オノロニ破リ同十二年一月十九日シダト、ロ
 ドリゴヲ取り同四月六日バダジスヲ取り後マ
 ルモントヲサラ、マンカニ破テ遂ニマドリトニ
 入り十三年六月シセフ及シールダンヲビトリ
 アニ破テピラ子スノ山路ヲ奪ヒ十月進テ佛ノ
 境ヲ超ユ是ニ於テスールトバヨレン子ニ退キ歳

ノ既ニ闌ナルヲ以テ兩軍暫戦ヲ息メ冬ヲ過コ
 ス○千八百十二年那波列翁俄羅斯ニ入テ大ニ
 敗レ十二月十八日夜單身巴勒ニ逃歸シ其従行
 ノ軍五十万人生還スルヲ得ル者僅ニ三万餘人
 アリ然レモ同十三年那波列翁拮据網繆シテ又
 三十五万ノ兵ヲ募リ日耳曼ニ入りシカ時ニ歐
 洲諸國群起シテ之ニ敵レ那波列翁ノ軍屢利ヲ
 失フ十月十六日大ニレイプシクニ戦ヒ同十八
 日又同地ニ戦テ佛軍一敗地ニ塗レ那波列翁僅
 ニ其軍ノ四分一ヲ以テライン河西ニ退キタリ

是ニ於テ諸國使ヲ遣リ和ヲ勸ムレニ那波列翁
 尚和ヲ請ハス千八百十四年俄羅斯帝漏生奧地
 利瑞典子ノプルス等ノ諸國兵ヲ合シテ佛ニ入
 ル那波列翁支戰スルコトニタヒ月ヲ閱シ三月
 三十一日同盟ノ軍遂ニ巴勒ニ入リケレハ那波
 列翁ハホシタングルニ避ク尋テ四月十一日
 那波列翁佛ノ帝位ヲ去リ同盟諸國之ヲエルバ
 島ニ移シ故王ルイス第十六世ノ弟ルイス第十
 八世ヲ立テ佛王トス英國ハ此約ニ與ラサリシ
 カ後五月三十日英奧佛俄帝ノ五國會盟シテ和

ヲ講シ兵ヲ罷ム英國之ニ由テマルタ錫蘭喜望
 峰等ヲ得タリ○千八百十四年二月聖ルリント
 シ再ヒ兵ヲ動カシテ益内地ニ入リスールトノ
 兵トオルゼスガロイン等ニ轉戰シテ四月十二
 日トローロリスノ邑ニ入リシカ是日午後巴勒ノ
 報至テ那波列翁禪位シ故王ノ統國ニ復スト傳
 ヘケレハ聖ルリントシ乃兵ヲ引テ西班牙ニ還
 リヘルジナントヲ位ニ復シテ後竟ニ英ニ凱旋
 ス是ニ至テ聖ルリントシ外國ニ在ルコト五年
 ナリ其歸ルニ及テ國入其功烈ヲ頌賛シテ已マ

ス議院其爵ヲ進ノ五十万ポンドヲ贈テ其勞ニ
 報ス○千八百十三年及十四年ノ間亞人再カテ
 ダニ攻入シテ又利アラス初十二年ノ舉ヨリ前
 後三回ニ及ヘトモ遂ニ功ヲ成サス亞人ノ死傷
 通計五万ニ及ヘリ千八百十四年西班牙ノ兵解
 ケシガ本國政府之ヲ亞墨利加ニ轉送シケレハ
 英ノ大將ロース其兵ヲ以テ八月十五日華盛頓
 ヲ陷イレ上下議院及其他一切諸公廨ヲ燒燼ス
 然レモ九月ロースバルチモールヲ攻メテ之ニ
 死シ尋テ十二月新オールリオンスニ戰テ又利アラ

ラス十二月廿四日兩國ノ使節ゲート和ニ會盟
 シテ終ニ兵ヲ罷ム○千八百十五年一月英法宇
 俄奧瑞西葡八國ノ公使ビイリンナニ會レテ歐
 洲ノ後事ヲ議ス然ルニ會後數日忽急報アリテ
 曰フ那波列翁エルバテ逸去シテ又佛ニ上陸ス
 ト會貢之ヲ聞テ直ニ又戰ヲ議シ五月諸國ノ軍
 六十餘万道ヲ分ケテ佛國ニ攻入セントス此警
 報倫敦ニ達スルニ當テ英國議院モ亦會ヲ開ケ
 リ時ニタルリントン英ノ公使トシテビイリン
 ナニ在リ書ヲ本國ニ寄セテ那波列翁ノ擔ヲ破

改正
 三十七
 八
 八

リ義ニ背クヲ責メ同盟ニ加ハルヘキコトヲ勸
 マケレハ議院其議ニ從ヒケルリントシテ白耳
 義ニ遣テ便宜ニ從ヒ軍事ヲ經理セシム那波列
 翁ハ三月一日カ_ン 港名ヨリ上陸シ都府ニ向テ
 進ミケレハ滿國ノ將士相將キテ途上ニ迎附ス
 ル者織ルカ如シ四月十九日夜ルイス都ヲ出テ
 遁走シ翌日那波列翁之ニ代テ府内ニ入り立ニ
 二十二万ノ兵ヲ得タリ那波列翁之ヲ分ケテ六
 軍トシ同盟軍ノ未集ラサルニ及テ一軍ユトニ
 之ヲ破ラント六月十四日其一軍ヲ率キテ白耳

義ノ境ヲ超ユ是時孛漏生ノ軍モ亦白耳義ニ在
 テリグニ一ニ屯シ英軍ハ之ニ隣リテカトルグ
 ラニ在リ十六日那波列翁子_一ヲシテカトルグ
 ラニ向ハシメ自孛_一ノ軍ヲ襲テ之ヲ擣破ス空レ
 リントシハ敗レスト雖孛_一軍潰走シケレハ其連
 逮ヲ懼レ孛_一將ブル_一ケルト明日ワルテルロー
 ニ相會セント約シテ十七日又軍ヲ退ク是日那
 波列翁ハ別將グロー_一セ_一ニ命シテ孛_一軍ヲ追ハ
 シメ自子_一ノ軍ト合シテ英軍ノ後ニ尾シ同日
 薄暮兩軍ワ_一テ_一ルローニ至テ相對スワ_一テ_一ル

ロ一ハ白耳義中ノ一小村ニシテブリ多セルスヲ
 南ニ距ルコト五里許村前ニ曠野アリテ小山連
 亘セリ英軍其高處ニ就テ布陣シ其右前ニホー
 ゴーモンントト名クル村邸アリ左前ニラ、ハイエ、
 サインテノ農園アリ並ニ兵ヲ分ケテ之ヲ護ス
 英軍歩兵五万人騎兵一万二千砲數百五十六門
 那波列翁ハ歩兵四万九千人騎兵一万六千大砲
 二百四十六位空ルリントノ陣ヲ距ルコト半
 里ニシテ又阜上ニ陣セリ十八日午前第十時佛
 軍始メテ動キ一ハホーゴトモンントニ向ヒ一ハ

サインテニ向ヒ那波列翁ハ阜上ニ止テ中軍ノ
 戦ヲ指麾ス斯テ日正ニ午ニ加ハル時三所ノ戦
 一時ニ酣ナリ那波列翁ブルケルノ未至ヲ
 ルニ及テ先英軍ヲ破ラント頻ニ兵ヲ放テ英ノ
 中堅ヲ犯シ反襲數回スレモ英軍方陣ヲ作テ之
 ヲ迎ヘ堅牢ニシテ破ル可カラス其他兩所ノ戦
 時ヲ移シテ佛軍纔ニサインテノ周牆ヲ奪テ之
 ニ據ルノミ是日孛軍ハグロッセーニ追ハレテ
 終日ウエーブルニ戦ヒシカブルケル兵ヲ分ケ
 テ之ニ當ラシメ自餘衆ヲ率非テ此際クローテレ

口トニ到著ス午後第七時佛軍ノ右ニ當リ轟然
 トシテ遙ニ砲聲アリ候騎忽報シテ云フ亭軍大
 ニ至ルト須臾ニシテ亭ノ一將ビロウト云フ者
 其部下ヲ以テ佛軍ノ右後ヲ環繞ス那波列翁之
 ヲ視テ益急ニ英軍ヲ摧破セント左右ヲ顧ミレ
 氏兵士既ニ疲困シテ用非ル可カラス唯那波列
 翁殊ニ愛撫スル所ノ親衛兵是日後拒ニ在テ未
 戰ハス那波列翁乃之ヲ呼ヒ子ニ附シテ又サ
 イシテヲ襲ハシムサインテモ亦稍高所ニ在リ
 英軍山頂ノ後ニ潜伏シテ砲丸ヲ避ゲシカ敵既

ニ頂上ニ近ツクニ及テ起立シ敵ノ擺開セント
 スルニ乗シテ一齊ニ發銃スルコト一回煙下ニ
 銃槍ヲ以テ突下シケレハ佛軍互ニ相蹂躪シ山
 ヲ下テ亂走シタリ是ニ於テ名ルリントシ令ヲ
 傳ヘテ諸隊齊シク進マシム此間亭軍益至テ佛
 ノ右翼ヲ破リ日暮佛兵遂ニ大ニ敗績ス初那波
 列翁名ルリントシノ名ヲ聞キ一タヒ之ニ逢テ
 其武ヲ比セシコトヲ欲セシカ是日始メテ會戦
 シ又遂ニ之カ為ニ破ラルト云フ那波列翁阜上
 ニ在テ戦ヲ指揮シ佛軍ノ擊却セラル、毎ニ囊

中ノ煙草ヲ攫テ地ニ擲ツコト一回親衛兵ノ亂
 レ退クヲ見テ傍人ヲ顧テ曰ク大事去レリト單
 騎馬ヲ飛シテ戰場ヲ逸去シ二十一日曉倉皇巴
 勒ニ歸入ス是ニ於テ計盡キ力屈シ位ヲ其子ニ
 讓テ世ヲ退カント請ヒシカ同盟諸國之ヲ許サ
 ス後十餘日英帝ノ軍進テ巴勒ニ近ツキケレハ
 那波列翁海ニ航シテ亞墨利加ニ逃レントロテ
 ホルトノ海口ニ至テ躊躇スルコト數日其逃ル
 可カラサルヲ知テ竟ニ身ヲ英ノ軍艦ニ投シ是
 歲十月同盟諸國ノ議ヲ以テヘレナ島ニ流サル

是ニ於テ佛國ノ大難始メテ平キタリ其亂始メ
 起リシヨリ是ニ至ル迄二十二年ノ間諸國ノ起
 伏一ナラス帝漏生ハ携貳迎合シテ僅ニ其國ヲ
 存レ墮地利ノ如キハ四タヒ兵ヲ起シテ四タヒ
 和ヲ請ヘリ全歐洲中終始挺然トシテ其勇武ヲ
 辱シメサル者ハ獨英國ノミナリ那波列翁屢水
 陸ノ軍ヲ調シ英ニ入ラント謀リシカ其必勝ヲ
 期セサルヲ以テ竟ニ兵ヲ加ハスト云フ○大洲
 擾亂ノ間英ノ國內ハ大抵安穩ナリ其海軍ノ他
 國ニ超ルヲ以テ海上ノ通商モ亦全ク廢スルニ

至ラス但頻年ノ征戰ニ因テ歲用支ヘス戰初國
 債ノ數尚ニ億三千万ニ滿タサリシモ千八百十
 五年二月ノ計算ニ據レハ八億万ノ多キニ至レ
 リ且亂後物價騰貴シ貿易凋委シテ產ヲ失フ者
 亦數シトセス是歲糴麥ノ法ヲ設ケ内地ノ麥價
 八十シルリシグヲ超ユルニアラサレハ他國ノ
 產ヲ輸入スルヲ禁セシカ民間大ニ是法ヲ不便
 トシ荒僻ノ地方往々事ヲ生スル者アリ○千八
 百十六年英將パールユ一軍艦二十五艘ヲ以テ亞
 非利加ニ至リアルジールスヲ攻ムアルジール

スハ亞非利加海岸ノ一部落ニシテ海賊ヲ業ト
 シ是ヨリ先戰爭ノ間海上ニ往來シテ屢諸國ノ
 船ヲ劫掠セルニ因テ其罪ヲ問フナリ八月廿七
 日砲戰スルコト數時ニシテ悉港中ノ砲臺ヲ焚
 毀レパールユ一土酋ニ迫テ和ヲ結ヒ歐洲ノ囚虜
 千餘人ヲ放釋セシム○千八百二十年一月廿三
 日王遂ニ心疾ヲ以テ死ス年八十二在位六十年
 ナリ長子ゼオルジ之ニ繼テ立ツ○王ノ在位ノ
 間百藝大ニ進ミ發明甚多シ千七百八十八年英
 人パトリックマイレルト云フ者始メテ瀛氣ヲ以

テ船ヲ行ル法ヲ發明ス後千八百七年亞人
トント云フ者其法ニ原テ瀛船ヲハドソン河ニ
浮ヘアルバニ一及ニ一ヨルクノ間ニ往来ス是
瀛船ヲ實際ニ用ヰル初ナリ又千八百七年始メ
テ倫敦ニ煤氣燈ヲ制シ滿都地下ニ伏道ヲ設ケ
テ煙ヲ導キ夜間之ヲ照シテ燭ニ代フ英人ノ支
那ト交通ヲ開キタルハ此王ノ世ニ在リ是ヨリ
先東印度商社ノ賈人往々支那ノ海岸ニ至テ内
地ノ民ト貿易スルコトアリト雖未政府ノ允許
ヲ得ルニ非ス千七百九十二年英國マセルトニ

ト云フ者ヲ公使トシテ支那ニ遣リ西國政府
始メテ約ヲ結ヒ通商ヲ開ケリ

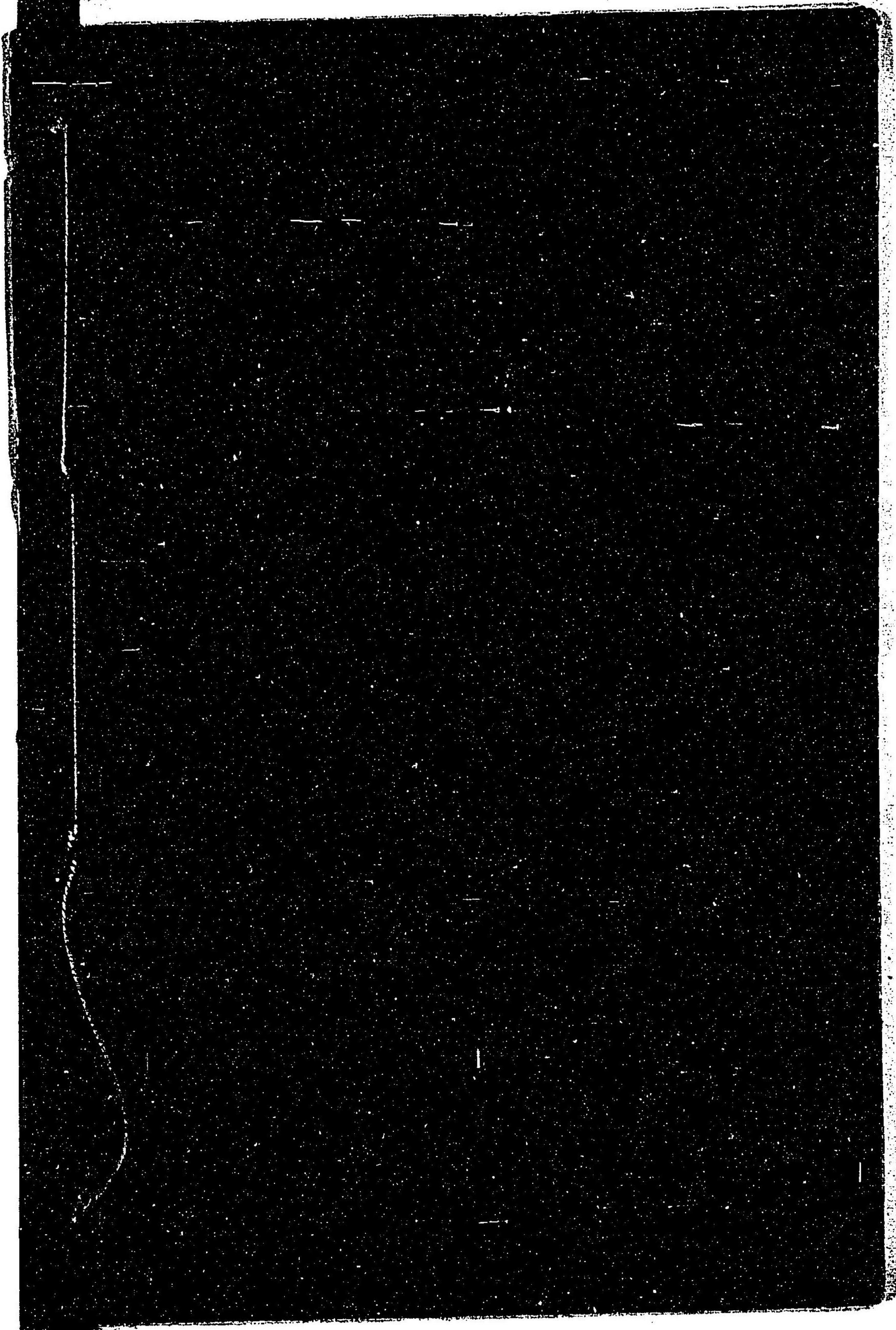
今邨 亮 校

改正 英史卷九終

再版

光

又奇



東 京 圖 書 館

二 冊	四 六 号	二 架	五 函	屬	類
--------	-------------	--------	--------	---	---